

# 『大學章句』、『中庸章句』の音注について

森 賀 一 恵

富山大学人文学部紀要第55号抜刷

2011年8月

## 『大學章句』、『中庸章句』の音注について

森 賀 一 恵

### 一 はじめに

多音字の音注は、字が常用義で用いられる場合に附されることは稀で、常用義と異なる意味で用いられ常用音と異なる音で読まれる場合に、音を示すより意味を示すために附されることが多い。そのため、多音字の注音は、音韻より訓詁と関わりが深い。以前、そのような観点から『論語』経文に附された『經典釋文』と『論語音義』の音注を比較して、『論語音義』の多音字に対する注音法の特徴を考えた<sup>1</sup>が、本稿はそれに續いて、『禮記』中庸・大學の経文に附された『經典釋文』の音義と『大學章句』、『中庸章句』（以下、二書を總稱する場合は『章句』と略す）の音注を比較することにより、『章句』の音注の特徴を明らかにしようとするものである。先ず、『經典釋文』と『章句』の對照表を示し、次いで、多音字の音注に焦點を當てて、意味との關係を考慮に入れつつ音注を比較し、『章句』の注音法の特徴を考える。

### 二 「中庸」「大學」音注對照表

#### 凡例

- 1 使用したテキストは、通志堂經解本『經典釋文』、中華書局本『四書章句集注』である。必要に応じて、上海古籍影北京圖書館藏宋刊本『經典釋文』、上海古籍出版社本・安徽教育出版社本『四書章句集注』を参照した箇所もある。
- 2 「被注箇所」は基本的に『經典釋文』が掲げる箇所を用いた。音注が『經典釋文』にない場合はその限りではない。
- 3 『大學章句』は、阮元本十三經注疏『禮記』大學テキストおよび『經典釋文』引用テキストと排列などに異同があるが、被注字は阮元本および『經典釋文』での出現順に排列した。
- 4 釋義は音に関わるもの以外は原則として記載しない。
- 5 經文テキストに「被注字」欄の字はあるが注がない場合は「×」、テキストに異同があり、その字がない場合は空欄で示す。

---

1 森賀 2010。

中庸音對照表

	被注字	被注箇所	釋文	章句
1	率	率性	所律反，循也	×
2	離	離也	力智反，下及注同	去聲
3	睹	不睹	丁古反	×
4	恐	恐懼	匡勇反，注同	×
5	閒	閒居	音閑，下同	×
6	見	莫見	賢遍反，注顯見同，一音如字	音現
7	樂	哀樂	音洛，注同	音洛
8	中	中節	丁仲反，下注爲之中同	去聲
9	憚	忌憚	徒旦反，忌畏也，憚難也	×
10	鮮	民鮮	息淺反，下及注同，罕也	上聲，下同
11	知	知者	音智，下文大知也、予知、注有知皆同	去聲
12	肖	不肖	音笑，下同	×
13	夫	矣夫	音扶	音扶
14	知	大知	×（上文に「音智，下文大知也…皆同」）	去聲
15	與	也與	音餘，下強與皆同	平聲
16	好	舜好	呼報反，下同	去聲
17	知	予知	×（上文に「音智，下文…予知…皆同」）	去聲
18	罟	罟	音古，罔之總名	音古
19	獲	獲	胡化反，尚書傳云，捕獸機檻	胡化反
20	陷	陷	陷没之陷	×
21	阱	阱	才性反，本或作穿，同，阱，穿地陷獸也，說文云，穿或爲阱字也	才性反
22	辟	知辟	音避，注知辟、辟害皆同	與避同
23	期	期月	音基	居之反
24	拳	拳拳	音權，又起阮反，徐羌權反，奉持之貌	×
25	膺	服膺	徐音應，又於陵反	×
26	蹈	可蹈	音悼，又徒報反	×
27	強	問強	其良反，下同	×
28	與	強與	×（上文に「音餘，下強與皆同」）	平聲
29	枉	枉金	而審反，又而鳩反	×
30	厭	不厭	於豔反	×
31	矯	哉矯	居表反，下同	×
32	倚	不倚	依彼反，徐其蟻反	×
33	遯	遯世	本又作遁，同，徒頓反	×
34	費	費而	本又作拂，同，扶弗反，猶侷也，徐音弗，注同	符未反
35	與	以與	音預，注皆與之與、以其與同	去聲
36	憾	所憾	本又作感，胡暗反，恨也，注同	×
37	鳶	鳶飛	悅專反，字又作載	余專反
38	戾	戾	力計、呂結二反	×
39	躍	魚躍	羊灼反	×
40	造	道造	在老反	×
41	柯	伐柯	古何反	×

## 『大學章句』、『中庸章句』の音注について

	被注字	被注箇所	釋文	章句
42	睨	睨而	徐音詣，睨睨也	研計反
43	行	言顧行行 顧言	皆下孟反，注聖人之行同，或一讀皆如字	×
44	慥	慥慥	七到反，守實貌	×
45	難	患難	乃旦反，下同	去聲
46	援	不援	音園，注同，牽持也	平聲
47	己	己	音紀	×
48	怨	無怨	於願反，又於元反，下及注並同	×
49	易	居易	以豉反，注同，平安也	去聲
50	徼	徼幸	古堯反	×
51	正	正	音征，注同	音征
52	鵠	鵠	古毒反，注同，…	工毒反
53	辟	辟如	音譬，下同	辟、譬同
54	邇	自邇	音爾，近也	×
55	卑	自卑	音婢，又如字，注同	×
56	好	好合	呼報反	去聲
57	翕	既翕	許急反，合也	×
58	樂	和樂	音洛，下及注同	音洛
59	耽	且耽	丁南反	耽詩作湛，亦音耽
60	帑	妻帑	音奴，子孫也，…	×
61	齊	齊明	側皆反，本亦作齋	側皆反
62	洋	洋洋	音羊	×
63	格	之格	古百反，來也	×
64	度	不可度	待洛反，注同	待洛反
65	矧	思矧	詩忍反，況也，注同	×
66	射	可射	音亦，厭也	音亦，詩作駁
67	揜	不可揜	音掩，於檢反	×
68	夫	此夫	音扶	音扶
69	與	也與	音餘	平聲
70	栽	故栽	依注音災，將才反，注同，植也	×
71	培	培之	蒲回反，益也	×
72	覆	覆	芳伏反	×
73	嘉	嘉樂	戶嫁反，詩本作假，音同，假嘉也，皇音加，善也	×
74	憲	憲憲	音顯，注同，興盛貌，一音如字	×
75	佑	保佑	音佑，助也，下注同	×
76	纘	纘	徐音纂，哉管反，繼也	×
77	大	大王	音泰，下及注大王皆同	音泰，下同
78	衣	壹戎衣	依注衣作殷，於巾反，戎兵也，謂一用兵伐殷也，尚書依字讀，謂一著戎衣而天下大定	×
79	末	武王末	亡遇反，老也	×
80	王	追王	于況反，注追王同	去聲
81	期	期之	音基，注同	×

	被注字	被注箇所	釋文	章句
82	昭	昭穆	常遙反	如字
83	穆	昭穆	穆又作繆，音同	×
84	爲	爲	×	去聲
85	選	以選	本又作逮，同，音代	×
86	燕	燕毛	於見反，注並同	×
87	示	示諸	依注音寘，之鼓反，置也	×
88	策 <sup>2</sup>	方策	初革反，方版也，策簡也	
89	夫	夫	×	音扶
90	蒲	蒲盧	並如字，爾雅云，…	×
91	盧	蒲盧	並如字，爾雅云，…	×
92	殺	之殺	色界反，徐所例反	去聲
93	治	而治	直吏反，一音如字	×
94	知	知仁	音智，下近乎知、注言有知皆同	去聲
95	強	勉強	其兩反，注同	上聲
96	好	好學	呼報反	去聲
97	近	近乎	附近之近，下同	去聲
98	行	力行	皇如字，徐下孟反	×
99	子	子庶民	如字，徐將吏反，愛也，下句放此	×
100	眩	不眩	玄遍反	×
101	齊	齊明	側皆反	側皆反
102	去	去讒	起呂反	上聲
103	遠	遠色	于萬反	去聲
104	好	好惡	呼報反（，下烏路反），又並如字，…	去聲
105	惡	好惡	（呼報反，）下烏路反，又並如字，…	去聲
106	斂	薄斂	力驗反	去聲
107	既	既	依注音飡，許氣反	許氣反
108	稟	稟	彼錦反，一本又力錦反，既稟謂稍食也	彼錦、力錦二反
109	稱	稱事	尺證反	去聲
110	朝	朝聘	直遙反	音潮
111	跲	不跲	其劫反，皇音跲，躓也	其劫反
112	行	行前	下孟反	去聲
113	疾	不疾	音救，病也	×
114	中	而中	丁仲反，又如字，下中道同	（中）並去聲
115	從	從容	上七容反	七容反
116	措	弗措	七路反，下及注皆同，置也	×
117	強	必強	其良反	×
118	禎	禎祥	音貞	×
119	妖	妖	於驕反，左傳云，…，說文作…	×
120	孽	孽	魚列反，說文…	×
121	見	見乎	賢遍反，下不見、注著見同，一本乎作於	音現
122	著	著龜	音尸，注同	×

2 阮元本、章句各本並作策。

## 『大學章句』、『中庸章句』の音注について

	被注字	被注箇所	釋文	章句
123	道	自道	音導，注自道同	音導
124	知	知也	音智，注同	去聲
125	疆	無疆	居良反	×
126	見	不見而章	×	音現
127	貳	不貳	本亦作貳，音二	×
128	夫	今夫	音扶，下同	音扶
129	昭	昭昭	章遙反，注同，本亦作炤，同，猶耿耿，小明也	×
130	撮	一撮	七活反	×
131	華	華嶽	戸化、戸瓜二反，本亦作山嶽	去聲
132	泄	不泄	息列反	×
133	卷	一卷	李音權，又羌權反，范羌阮反，猶區也，注同	平聲
134	藏	寶藏	才浪反	去聲
135	勺	一勺	徐市若反	市若反
136	鼃	鼃	音元	×
137	鼃	鼃	徒河反，一音直丹反	×
138	蛟	蛟龍	音交，本又作蛟	×
139	鼈	鼈	必列反	×
140	於	於穆	上音烏，下於乎亦同	音烏
141	乎	於乎	好奴反	音呼
142	洋	洋洋	音羊	×
143	峻	峻極	思閏反，高大也	×
144	優	優優	於求反，倡優也	×
145	凝	不凝	本又作疑，魚澄反，成也	×
146	驕	不驕	本亦作喬，音嬌	×
147	倍	不倍	音佩	與背同
148	默	其默	亡北反	×
149	哲	且哲	陟列反，徐本作知，音智	×
150	與	謂與	音餘	平聲
151	好	而好	呼報反，下同	去聲
152	裁	裁及	音災	古灾字
153	行	行同倫	下孟反	去聲
154	杞	杞不	音起	×
155	王	王天下	于況反，又如字	去聲
156	繆	不繆	音謬	×
157	悖	不悖	布內反，後同	×
158	遠	遠之	如字，又于萬反	×
159	近	近之	如字，又附近之近	×
160	厭	不厭	於豔反，後皆同	×
161	惡	惡	×	去聲
162	射	無射	音亦，注同	音妒，詩作敦
163	蚤	而蚤	音早	×
164	辟	辟如	音譬，下同	辟音譬
165	轉	覆轉	徒報反	徒報反

	被注字	被注箇所	釋文	章句
166	錯	之錯	七各反	×
167	叡	明叡	音銳	×
168	知	知	音智，下聖知同	去聲
169	齊	齊莊	側皆反	側皆反
170	別	有別	彼列反	彼列反
171	溥	溥博	音普	×
172	見	見而	賢遍反	音現
173	說	不說	音悅	音悅
174	施	施及	以豉反	去聲
175	貉	蠻貉	本又作貊，武伯反，說文云，北方人也	×
176	隊	所隊	直類反	音墜
177	論	能經論	本又作綸，同，音倫	×
178	夫	夫焉	×	音扶
179	焉	夫焉	於虔反	於虔反
180	倚	所倚	依綺、於寄二反，注同	×
181	肫	肫肫	依注，音之淳反，懇誠貌	之純反
182	浩	浩浩	胡老反	×
183	知	聖知之知	×	去聲
184	衣	衣錦	×	去聲
185	綱	尚綱	本又作穎，詩作嬰同，口迺反，徐口定反，一音口穎反	口迺反
186	惡	惡其	烏路反	去聲
187	著	之著	張慮反	×
188	關	關然	於感反，又如字	於感反
189	日	而日	而一反，下同	×
190	的	的然	丁曆反	×
191	淡	淡而	徒暫反，又大敢反，下注同	×
192	厭	不厭	於豔反	×
193	昭	之昭	本又作炤，同，之召反，又章遙反	×
194	疚	不疚	九又反	×
195	惡	無惡	×	去聲
196	相	相在	息亮反，注同	去聲
197	愧	不愧	本又作媿，同，九位反	×
198	奏	奏	如字，詩作韻，子公反	×
199	假	假	古雅反，大也	假格同
200	爭	有爭	爭鬪之爭，注同	×
201	鈇	鈇	方于反，又音斧	音夫
202	鉞	鉞	音越	×
203	辟	百辟	音璧，君也，注同	×
204	末	末也	亡曷反	×
205	輶	德輶	音酉，一音由，注同	由、酉二音
206	載	之載	依注讀曰栽，音災，生也，詩音再	×

## 大學音對照表

	被注字	被注箇所	釋文	章句
1	大	大學	舊音泰，劉直帶反	舊音泰，今讀如字
2	近	則近	附近之近	×
3	治	治其國	×	平聲，後放此
4	知	其知	如字，徐音智，下致知同	×
5	格	在格	古百反	×
6	治	國治國治	並直吏反，下同	去聲，後放此
7	毋	毋自	音無	×
8	惡	如惡惡	上烏路反，下如字	(惡好,) 上字皆去聲
9	臭	臭	昌救反	×
10	好	好好	上呼報反，下如字	(惡好,) 上字皆去聲
11	謙	自謙	依注，讀爲慊，徐苦簞反，厭也	讀爲慊，苦劫反
12	閒	閒居	音閑	音閑
13	厭	厭	讀爲黶，烏斬反，徐又烏簞反，厭然，閉藏貌也	鄭氏讀作黶
14	揜	揜其	於檢反	×
15	著	而著	張慮反，後同	×
16	肺	其肺	芳廢反	×
17	肝	肝然	音干	×
18	胖	體胖	步丹反，大也，注及下同	步丹反
19	澳	澳	本亦作輿，於六反，本又作隩，一音烏報反	於六反
20	菴	菴竹	音綠	詩作綠
21	猗	猗猗	於宜反	叶韻，音阿
22	斐	有斐	芳尾反，一音匪，文章貌	×
23	瑳	如瑳	七何反	×
24	琢	如琢	丁角反	×
25	摩	如摩	本亦作磨，末何反，爾雅云，…	×
26	儻	儻兮	下板反，又胡板反	下版反
27	赫	赫	許百反	×
28	喧	喧兮	本亦作咍，況晚反	詩作咍
29	諠	可諠	許袁反，詩作諠，或作喧，音同，忘也	詩作諠，並況晚反
30	恂	恂	依注音峻，思俊反，一音思旬反	鄭氏讀作峻
31	慄	慄	利悉反	×
32	於	於	音烏，下於緝熙同	(於戲,) 音鳴(呼)
33	戲	戲	好胡反，徐、范音義	(於戲,) 音(鳴)呼
34	樂	樂其樂	並音岳，又音洛，注同	音洛
35	誥	康誥	古報反	×
36	大	大甲	音泰	讀作泰
37	顧	顧	音故，本又作頤，同，念也	×



	被注字	被注箇所	釋文	章句
38	諛	諛	音是，正也	古是字
39	峻	峻德	徐音俊，又私俊反	書作俊
40	盤	盤	步干反	×
41	銘	銘	徐音冥，亡丁反	×
42	畿	邦畿	音祈，又作幾，音同	×
43	緝	緝蠻	音緜，一音亡巾反，毛詩作緜，傳云，緜蠻，小鳥貌	詩作緜
44	於	於緝	七入反	(於緝之於，) 音鳥
45	熙	熙	許其反	×
46	訟	吾聽訟	似用反	×
47	毋 <sup>3</sup>	毋訟	音無	
48	忿	所忿	弗粉反	弗粉反
49	慍	慍	勅值反，忿慍，怒貌也，范音稚，徐丁四反，又音勅	勅值反
50	恐	恐懼	丘勇反	×
51	好	所好	呼報反，下故好而知同	去聲
52	樂	樂	徐五孝反，一音岳	去聲
53	譬	而譬	音譬，下及注同，謂譬喻也	讀爲僻
54	惡	賤惡	烏路反，下惡而知同	去聲
55	敖	所敖	五報反	去聲
56	惰	惰	徒臥反	×
57	好	故好而知	× (上文に「呼報反，下故好而知同」)	(……好並) 去聲
58	惡	其惡惡	上如字，下烏路反	×
59	鮮	鮮矣	仙善反，注同	鮮上聲
60	諺	故諺	魚變反，俗語也	音彥
61	碩	碩	×	叶韻，時若反
62	弟	弟者	音悌	去聲
63	長	事長	丁丈反，下長長并注同	上聲
64	中	不中	丁仲反，注同	去聲
65	戾	貪戾	力計反	×
66	債	賁事	徐音奮，本又作債，…	音奮
67	好	所好	呼報反，注同	去聲
68	夭	夭夭	於驕反	平聲
69	藜	藜	音臻	音臻
70	忒	不忒	他得反	×
71	長	長長	× (上文に「丁丈反，下長長并注同」)	上聲
72	弟	興弟	音悌	去聲
73	倍	不倍	音佩，注同	與背同
74	絜	有絜	音結	胡結反
75	拒	拒之	音矩，本亦作矩	阮元本、章句作矩
76	惡	所惡	烏路反，下皆同	去聲

3 阮元本、章句各本並作無。

## 『大學章句』、『中庸章句』の音注について

	被注字	被注箇所	釋文	章句
77	毋	毋以	音無, 下同	×
78	先	先後	×	去聲
79	樂	樂只	×	音洛
80	只	樂只	音紙	音紙
81	好	所好好	皆呼報反	(好惡並) 去聲, 下並同
82	惡	惡	× (上文に「烏路反, 下皆同」)	(好惡並) 去聲, 下並同
83	節	節彼	徐音截, 前切反, 一音如字	讀爲截
84	巖	巖巖	五衡反	×
85	辟	辟則	匹亦反, 注同	讀爲僻
86	僂	僂矣	音六	與戮同
87	喪	未喪	息浪反	去聲
88	峻	峻命	恤俊反, 大也	詩作駿
89	易	不易	以豉反, 注同	去聲
90	爭	爭民	爭鬪之爭	×
91	施	施奪	如字	×
92	悖	言悖	布内反, 下同	布内反
93	个	若有一个	古賀反, 一讀作介, 音界	古賀反, 書作介
94	斷	斷斷	丁亂反	丁亂反
95	它 <sup>4</sup>	無它	音他	
96	技	技	其綺反, 下及注同	×
97	休	休休	許虯反	×
98	好	好之	呼報反	× (上文に「去聲, 下並同」)
99	啻	不啻	音試, 詩豉反	×
100	媚	媚疾	莫報反, 妬也, 尚書作冒, 音同, 謂覆蔽也	音冒
101	惡	以惡	烏路反, 下能惡人同	× (上文に「去聲, 下並同」)
102	俾	俾不	本又作卑, 必爾反, 使也	×
103	迸	迸諸	北孟反, 又逼諍反, 諍音爭鬪之爭, 皇云迸猶屏也	迸讀爲屏, 古字 通用
104	命	命也	依注音慢, 武諫反	鄭氏云當作幔, 程子云當作怠, 未詳孰是
105	遠	能遠	于萬反	去聲
106	好	好人	呼報反, 下皆同	× (上文に「去聲, 下並同」)
107	惡	之所惡	烏路反, 下同	× (上文に「去聲, 下並同」)
108	拂	拂人	扶弗反, 注同, 侷也	×

4 阮元本、章句各本並作他。

	被注字	被注箇所	釋文	章句
109	蓄	蓄必	音哉, 下同	蓄, 古灾字
110	逮	逮	音代, 一音大計反	×
111	夫	夫身	音扶	音扶
112	恒	恒	×	胡登反
113	畜	畜	許六反, 下同	許六反
114	乘	馬乘	徐繩證反, 下及注同	(乘、斂並) 去聲
115	斂	斂	×	(乘、斂並) 去聲
116	長	長國	丁丈反	上聲

### 三 『大學章句』、『中庸章句』の多音字注音の特徴

『經典釋文』(以下、『釋文』と略す) 禮記音義と『大學章句』・『中庸章句』に見える主な多音字の音注について、音と意味の對應を考えながら、『章句』の音注の特徴をみる。配列は現代語の常用音の拼音による。なお、多音字の読み分けや『釋文』論語音義、『論語集注』について述べる部分は、一々明記しないが、森賀2010に據る場合がある。

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| (1) 辟 bì    | (12) 近 jìn   | (23) 鮮 xiān  |
| (2) 別 bié   | (13) 樂 lè    | (24) 相 xiāng |
| (3) 藏 cáng  | (14) 離 lí    | (25) 行 xíng  |
| (4) 長 cháng | (15) 難 nán   | (26) 衣 yī    |
| (5) 朝 cháo  | (16) 強 qiáng | (27) 易 yì    |
| (6) 道 dào   | (17) 去 qù    | (28) 與 yǔ    |
| (7) 弟 dì    | (18) 喪 sāng  | (29) 遠 yuǎn  |
| (8) 惡 è     | (19) 施 shī   | (30) 知 zhī   |
| (9) 夫 fū    | (20) 說 shuō  | (31) 治 zhì   |
| (10) 好 hào  | (21) 王 wáng  | (32) 中 zhōng |
| (11) 見 jiàn | (22) 爲 wéi   |              |

#### (1) 辟 bì

『釋文』論語音義では、「きみ」の意の「辟」には「必亦反」, 「僻」に通用する「辟」には「匹亦反」, 「避」に通用する「辟」には「音避」と音注が付けられていたが、禮記音義には「きみ」の意の「辟」を「音璧」とする例がある。「譬」に通用する「辟」の「音譬」, 「避」に通用する「辟」の「音避」などは、時建国2005が「被注字有通假爲他字的現象、陸氏“音某”向讀者提示此處當以本字本音讀出(被注字が他の字に通用するときは、『釋文』では「音某」とすることで讀者にその箇所の被注字が本字本音で讀むべきであることを示唆する)」という類の直音注で、

『釋文』の直音注音にはよく見られるものである。大學、中庸で音注を附される「辟」は、「譬」「僻」「避」などに通用する例で、『章句』では直音も1例あるが、「讀爲…」、「與…同」などと直接、本字で讀むことを指示する例が多い。

	被注箇所	釋文	章句
大學 53	而辟	音譬，下及注同，謂譬喻也	讀爲僻
大學 85	辟則	匹亦反，注同	讀爲僻
中庸 22	知辟	音避，注知辟，辟害皆同	與避同
中庸 53	辟如	音譬，下同	辟、譬同
中庸 164	辟如	音譬，下同	音譬
中庸 203	百辟	音璧，君也，注同	×

## (2) 別 bié

『廣韻』入十七薛・別（皮列切）に「別，異也，離也，解也，……，又彼列反」，廖（方列反）に「別，分別」。『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「別，辨也（彼列反），既辨曰別（皮列反）。『羣經音辨』は別小韻の又切を採り、「方列反」を採らない。いずれにしる二音とも入聲なので、『中庸章句』（中庸 170）も聲調でなく、『釋文』と同じく反切「彼列反」を用いる。

## (3) 藏 cáng

『廣韻』下平十一唐・藏（昨郎切）に「隱也，匿也，…又徂浪切」，去四十二宕・藏（徂浪切）に「通俗文曰，庫藏曰帑，…又徂郎切」，『羣經音辨』卷六に「藏，入也（徂郎切），謂物所入曰藏（徂浪切）」。「如字」は「<sup>かく</sup>藏る」「<sup>おさ</sup>藏む」の意の平聲の「藏」で、『釋文』では「<sup>くら</sup>藏」の意の去聲の「藏」に反切が附く。『中庸章句』（中庸 134）ではその音を聲調で記す。

## (4) 長 cháng

『釋文』では、現代共通語の cháng（平聲）と zhǎng（上聲）に對應する音のほか、去聲の音があり、「如字」は平聲で、上聲は「丁丈反」、去聲は「直亮反」などとされる。『大學章句』でも『論語集注』と同じく、「長」は聲調で注される。

	被注箇所	釋文	章句
大學 63	事長	丁丈反，下長長并注同	上聲
大學 71	長長	×（上文に「丁丈反，下長長并注同」）	上聲
大學 116	長國	丁丈反	長上聲

## (5) 朝 cháo

『廣韻』下平四宵・朝（陟遙切）に「早也，…，又直遙切」，鼂（直遙切）小韻に「朝，朝廷也，…」，『羣經音辨』卷六・辨彼此異音に「朝，旦日曰朝（陟遙切），且見曰朝（直遙切）」。現代語の「朝廷」「朝代」などの「朝」（cháo）、「朝日」「朝令夕改」などの「朝」（zhāo）も同じ。『釋文』

では、「如字」は「朝<sup>あさ</sup>」の方で、「朝廷」「朝見」の「朝」の方に「直遥反」の音が付き、『論語集注』は直音で「音潮」とする。『中庸章句』に見える1例(110)も『釋文』で「直遥反」と注される「朝」に「音潮」と注する。

(6) 道 dào

『廣韻』では「道」は上聲のみ(上三十二皓・道(徒皓切))、「導」は去聲のみ(去三十七号・導(徒到切))である。濁音(定母)なので規則的な変化だと現代語ではいずれも第四聲になるはずだが、現代語では「道」は dào、「導」は dǎo と読み分けられている。『釋文』は「導」に讀ませる「道」に「音導」と直音の注が附くが、『論語集注』はそれを聲調に置き換える例が多かった。『中庸章句』に見える1例(123)は、『釋文』と同じく「音導」とする。

(7) 弟 dì

『釋文』が「音悌」とするのは、「悌」に通用する「弟」で、これも、「辟」の直音注同様、被注字が通用字の場合に本字で音を示すタイプの直音注である。『釋文』論語音義は「悌」に讀ませる「弟」に「大計反」または「音悌」とし、『論語集注』は聲調で音を記していたが、『大學章句』も『論語集注』と同じく聲調で記す。

	被注箇所	釋文	章句
大學62	弟者	音悌	去聲
大學72	興弟	音悌	去聲

(8) 惡 è

『廣韻』上平十一模・烏(京都切)小韻に「惡, 安也」, 去十一暮・汚(烏路切)「惡, 憎惡也, 又烏各切」, 入十九鐸・惡(烏各切)に「不善也, 說文曰過也, …, 又烏故切」。「惡くんぞ」(疑問や反語を示す助辭)なら平聲, 「憎惡<sup>ぞうお</sup>」「惡む<sup>にく</sup>」なら去聲, 「惡<sup>あく</sup>」「悪い<sup>わる</sup>」なら入聲ということになるが、現代語でも疑問詞、感嘆詞は wū, 「にくむ」は wù, 「わるい」は è と読み分けている。『釋文』では入聲の「惡」が「如字」で、平聲の「惡」は感嘆詞に用いられ意味の通用する「烏」を用いて直音で「音烏」とし、去聲については反切を用いる。『論語集注』は聲調に置き換える。『章句』も聲調で示す。

	被注箇所	釋文	章句
大學8	如惡惡	上烏路反, 下如字	(惡好,) 上字皆去聲
大學54	賤惡	烏路反, 下惡而知同	(惡而之惡, ……) 去聲
大學58	其惡惡	上如字, 下烏路反	×
大學76	所惡	烏路反, 下皆同	去聲
大學82	惡	× (上文に「烏路反, 下皆同」)	(好惡並) 去聲, 下並同
大學101	以惡	烏路反, 下能惡人同	× (上文に「去聲, 下並同」)

大學107	之所惡	烏路反, 下同	× (上文に「去聲, 下並同」)
中庸105	好惡	(呼報反,) 下烏路反, 又並如字, …	去聲
中庸161	惡	×	去聲
中庸186	惡其	烏路反	去聲
中庸195	無惡	×	去聲

## (9) 夫 fū

『廣韻』上平十虞・扶(防無切)「夫, 語助」, 附(甫無切)「夫, 丈夫, …」, 『羣經音辨』卷四に「夫, 丈夫也(甫無切), 夫, 語辭也(防無切)」。いずれも、「夫」<sup>おつと</sup>「丈夫」<sup>おとこ</sup>の意味では非母, 語辭の場合は奉母で, 現代語でも前者は fū, 後者は fù である。『釋文』論語音義は語辭の「夫」について「音符」とし, 『論語集注』は「音扶」としていたが, 禮記音義, 『章句』はいずれも「音扶」である。

	被注箇所	釋文	章句
大學111	夫身	音扶	音扶
中庸13	矣夫	音扶	音扶
中庸68	此夫	音扶	音扶
中庸89	夫	×	音扶
中庸128	今夫	音扶, 下同	音扶
中庸178	夫焉	×	音扶

## (10) 好 hào

『廣韻』上三十二皓・好(呼皓切)に「善也, 美也」, 去三十七号・耗(呼到切)小韻に「好, 愛好, …」, また『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「好, 善也(呼皓切), 嚮所善謂之好(呼到切)」。現代語の hào と hào の読み分けも同じである。『釋文』論語音義では去聲の「好」に反切で「呼報反」と音を示し, 『論語集注』は聲調で「去聲」とするが, 大學, 中庸も同じく, 『釋文』は反切, 『章句』は聲調で音を示す。

	被注箇所	釋文	章句
大學10	好好	上呼報反, 下如字	(惡好,) 上字皆去聲
大學51	所好	呼報反, 下故好而知同	去聲
大學57	故好而知	× (上文に「呼報反, 下故好而知同」)	(……好並) 去聲
大學67	所好	呼報反, 注同	去聲
大學81	所好好	皆呼報反	(好惡並) 去聲, 下並同
大學98	好之	呼報反	× (上文に「去聲, 下並同」)
大學106	好人	呼報反, 下皆同	× (上文に「去聲, 下並同」)
中庸16	舜好	呼報反, 下同	去聲
中庸56	好合	呼報反	去聲

中庸96	好學	呼報反	去聲
中庸104	好惡	呼報反(下烏路反), 又並如字, …	去聲
中庸151	而好	呼報反, 下同	去聲

(11) 見 jiàn

『廣韻』去三十二霰・見(古電切)「視也, …」見(胡甸切)「露也」。二音の韻は同じだが、「見る」だと見母, 「見れる」だと匣母で, 現代語でも jiàn と xiàn に読み分けられているが, 現代では xiàn は「現」を用いることが多い。『羣經音辨』卷六・辨彼此異音に「見, 上臨下曰見(古甸切), 下朝上曰見(胡甸切)」「見, 視之曰見(古甸切), 示之曰見(胡甸切)」も同様である<sup>5</sup>。『論語集注』では、『釋文』と同じく「賢遍反(賢徧反)」という反切で音が示されるが、『中庸章句』では直音である。

	被注箇所	釋文	章句
中庸6	莫見	賢遍反, 注顯見同, 一音如字	音現
中庸121	見乎	賢遍反, 下不見, 注著見同	音現
中庸126	不見而章	×	音現
中庸172	見而	賢遍反	音現

(12) 近 jìn

『廣韻』上十九隱・近(其謹切)に「迫也, 幾也」, 去二十四霰・近(巨斬切)に「附也」, 『羣經音辨』卷六・辨字音疑混に「近, 相隣曰近(巨隱切), 相親曰近(巨刃切)」。「近い」なら上聲, 「近づく」なら去聲である。『釋文』では上聲の「近」が「如字」で, 去聲の「近」に「附近之近」と注が附く。『中庸章句』は『論語集注』と同じく「去聲」とし, 「如字」の「近」には音を附けない。

	被注箇所	釋文	章句
中庸97	近乎	附近之近, 下同	去聲
中庸159	近之	如字, 又附近之近	×

(13) 樂 lè

『廣韻』去三十六效・樂(五教切)「好也, …, 又岳, 洛二音」, 入四覺・嶽(五角切)小韻に「樂, 音樂, 又姓」, 入十九鐸・落(盧各切)小韻に「樂, 喜樂, 又五角, 五教二切」。「音樂」の「樂」は疑母覺韻, 「このむ, ねがう」の意の「樂」は疑母效韻, 「たのしい」の意の「樂」は來母鐸韻である。『羣經音辨』卷二・辨字同音異も同じ。現代語は「音樂」の「樂」は yuè, 「たのしい」「たのしむ」の lè の二音のみで, 中古音の疑母效韻に對應する音はない。『釋文』では「音樂」の「樂」が「如字」で, 「たのしい」には「音洛」, 「このむ」には「五孝反」「五教反」などの音が付き

5 黄坤堯 1997, 森賀 2010 参照。

れ、『論語集注』は概ね『釋文』と同じだが、『大學章句』には『釋文』の「五孝反」を「去聲」とする箇所がある。

	被注箇所	釋文	章句
大學34	樂其樂	並音岳，又音洛，注同	音洛
大學52	樂	徐五孝反，一音岳	去聲
大學79	樂只	×	音洛
中庸7	哀樂	音洛，注同	音洛
中庸58	和樂	音洛，下及注同	音洛

#### (14) 離 lí

『廣韻』上平五支・離（呂支切）に「近曰離，遠曰別，…」，去五寘・罫（力智切）小韻に「離，去也，又力知切，去十二霽・麗（郎計切）小韻に「離，漢書<sup>6</sup>云，附離，著也」，『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「離，兩也（力支切），兩之曰離（力智切）」。離れている状態をいうときは平聲，離す，分かつという意味では去聲である。『釋文』では平聲が「如字」で，去聲の「離」に反切が附く。『中庸章句』（中庸2）では『論語集注』と同じく，聲調で音を示している。

#### (15) 難 nán

『廣韻』上平二十五寒・難（那干切）に「艱也，不易稱也，…」，去二十八翰・攤（奴案切）小韻に「難，患也」，『羣經音辨』卷二・辨字同音異・佳部に「難，艱也（奴干切），難，郤也（乃多切，禮季冬始難毆疫<sup>7</sup>）」，卷六・辨字音清濁に「難，艱也（乃干切），動而有所艱曰難（乃旦切）」。現代語と同じく，「むずかしい」の意の「難」が平聲（nán），「災難」「非難」の「難」が去聲（nàn）である。禮記音義は去聲の「難」に「乃旦反」という反切を附け，『中庸章句』（中庸45）は『論語集注』と同じく聲調で音を示す。

#### (16) 強 qiáng

『廣韻』は下平十陽の「強」（巨良切）一音のみ。『集韻』では平聲の他，上三十六養に「強，巨兩切，勉也」。「強い」の意なら平聲，「強いる」という意なら上聲である。『釋文』は反切で音を示すが，『中庸章句』では上聲の「強」にのみ聲調で音を示している。

	被注箇所	釋文	章句
中庸95	勉強	其兩反，注同	上聲
中庸117	必強	其良反	×

6 楊雄傳下「附離」顏師古注に「離，著也，音麗」。

7 『周禮』夏官・方相氏。「攤（nuó）」に通用する。



(17) 去 qù

『廣韻』上八語・去(羌舉切)に「除也, …」, 去九御・籌(近<sup>8</sup>倨切)小韻に「去, 離也」, 『羣經音辨』卷六・辨彼此異音に「除之曰去(羌舉切), 自離曰去(丘<sup>9</sup>倨切)。「除去する」の意なら上聲, 「去る」の意なら去聲である。『釋文』では「除去」の「去」に反切が付き, 『中庸章句』(中庸 102) では『論語集注』と同じく聲調で記している。

(18) 喪 sāng

『廣韻』下平十一唐・桑(息郎切)小韻に「喪, 亡也, 死喪也, …又息浪切」, 去四十二宕・喪(蘇浪切)「亡也, …, 又音桑」, 『羣經音辨』卷六に「喪, 死亡曰喪(息郎切), 失亡曰喪(息浪切)」。現代語と同じく, 死を意味する「喪」が平聲(sāng), 「失う」の意の「喪」が去聲(sàng)である。『釋文』では「失う」の意の去聲の「喪」に反切が附くが, 『大學章句』(大學 87) は『論語集注』と同じく聲調で音を記す。

(19) 施 shī

『廣韻』上平五支・跼(式支切)小韻に「施, 施設, …, 又式鼓、以寘二切」, 去五寘・翅(施智切)小韻に「施, 易曰, 雲行雨施, 又式支切」。『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「施, 行也(式支切), 行惠曰施(式鼓切)」, 辨彼此異音に「施, 設之曰施(式支切, 詩肅肅兔置, 施于中逵<sup>10</sup>), 及之曰施(羊至切, 詩葛之覃兮, 施于中谷<sup>11</sup>)。「しく」という意味なら「式支切」(書母支韻, 平聲), 「ほどこす」という意味なら「施智(式鼓)切」(書母寘韻, 去聲), 「およぶ」という意味なら「羊至切」(喻母(四等)至韻(『廣韻』は寘韻), 去聲)である。「ほどこす」も「およぶ」も去聲で, 「如字」の「しく」の意味だと平聲になる。『釋文』は反切を記し, 『論語集注』では聲調で音を記していたが, 『大學章句』の例は「如字」で音注がなく, 『中庸章句』の例は『論語集注』と同じく聲調で音を示す。

	被注箇所	釋文	章句
大學 91	施奪	如字	×
中庸 174	施及	以鼓反	去聲

(20) 說 shuō

『釋文』論語音義では「悦」に通用する「說」が直音で「音悦」と注されるが, 「如字」の「說」

8 周祖謨 1960 は「近」を誤りとする。

9 四部叢刊續編本は「丘」を「兵」に作る。水谷誠 1998 によると畿輔本は「丘」に作る。ここではそれに従って改めた。

10 周南・兔置。

11 周南・葛覃。

も入聲であるためか、『論語集注』も同じく直音で音を記す。『中庸章句』（中庸173）の例も同じである。

## (21) 王 wáng

下平十陽・王（雨方切）に「大也，君也，…，又雨誑切」，去四十一漾・廷（于放切）小韻に「王，霸王，又盛也，又于方切」，『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「王，君也（于方切），君有天下曰王（于放切）」。君主の意の「王」は平聲，「君臨する」という意味の「王たり」は去聲である。『釋文』は去聲の「王」に反切を附けるが，『中庸章句』は聲調で音を記す。

	被注箇所	釋文	章句
中庸 80	追王	于況反，注追王同	去聲
中庸 155	王天下	于況反，又如字	去聲

## (22) 爲 wéi

『廣韻』に上平五支の「爲」（葑支切，去五寘「爲」の又切は尤危切）と去五寘の「爲」（于僞切，上平五支「爲」の又切は王僞切）。現代語でも「爲す」「する」という意味では wéi，「爲に」という意味では wèi である。『釋文』では「如字」は平聲の方で，「爲に」の方に反切が附く。『論語集注』は聲調で音を記すが，『中庸章句』（中庸 84）でも「爲に」の意の「爲」に聲調で注を附けている。

## (23) 鮮 xiān

『廣韻』下平二仙（相然切）に「鮮，鮮潔也，善也，…」，上二十八獮（息淺切）に「鮮，少也」<sup>12</sup>。現代語でも「新鮮」の「鮮」は xiān，「鮮少」の「鮮」は xiǎn である。「新鮮」の「鮮」が「如字」なので，「鮮少」の「鮮」の方に『釋文』では反切が付き，『大學章句』『中庸章句』各 1 例は『論語集注』と同じく聲調で音が付けられる。

	被注箇所	釋文	章句
大學 59	鮮矣	仙善反，注同	鮮上聲
中庸 10	民鮮	息淺反，下及注同，罕也	上聲，下同

## (24) 相 xiāng

『廣韻』下平十陽・襄（息良切）小韻に「相，共供也，瞻視也，…，又息亮切」，去四十一漾・相（息亮切）に「視也，助也，扶也，…，又息良切」，『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「相，共也（息良切），共助曰相（息亮切）」。現代語でも「互相」の「相」なら xiāng，「相ける」，「宰相」の「相」なら xiàng である。『釋文』では「輔助」「宰相」の意の「相」に反切が付き，『論語集注』の音注は聲調で記されるが，『中庸章句』（中庸 196）も聲調を用いている。

12 去三十三線（私箭切）の「鮮」は姓。

(25)行 xíng

『廣韻』下平十一唐・航（胡郎切）小韻に「行，伍也，列也」，下平十二庚・行（戸庚切）に「行歩也，適也，往也，去也，…」，去四十二宕・吭（下浪切）小韻に「行，次第」，去四十三映・行（下更切）に「景迹，又事也，言也」。現代漢語では「戸庚切」に對應する xíng，「胡郎切」に對應する háng，「下浪切」に對應する hàng の読み分けはあり，「下更切」に對應する xìng も『現代漢語詞典』など現代語の字典や辭典に「行爲」の意の「行」の「旧讀」として記載されている。「行爲」の意の「行」には『釋文』では「下孟反」という反切が附けられることが多く，『論語集注』はそれを「去聲」とするが，『中庸章句』もやはり聲調で音が附けられ，「如字」の「行」には音は附かない。

	被注箇所	釋文	章句
中庸 43	言顧行行顧言	皆下孟反，注聖人之行同，或一讀皆如字	×
中庸 98	力行	皇如字，徐下孟反	×
中庸 112	行前	下孟反	去聲
中庸 153	行同倫	下孟反	去聲

(26)衣 yī

『廣韻』上平八微・依（於希切）小韻に「衣，上曰衣，下曰裳，…」，去八末・衣（於既切）に「衣著」。『羣經音辨』卷六・辨字音清濁に「衣，身章也（於希切），施諸身曰衣（於既切）」。現代語でも「衣服」は yī，「穿」は yī である（『現代漢語詞典』）。「如字」は平聲の名詞「衣」で，去聲の動詞「衣」に音が附く。『釋文』は反切，『論語集注』はそれを聲調で記すが，『中庸章句』（中庸 184）でも動詞「衣」に聲調で音が附される。

(27)易 yì

『廣韻』去五寘・易（以豉切）に「難易也，簡易也，…」，入二十二昔・釋（羊益切）小韻に「易，變易，又始也，改也，奪也，轉也，…」。「平易」の意味だと去聲，「易える」「易わる」の意味だと入聲である。現代漢語（普通語）では意味による音の區別は既がないが，日本漢字音には漢語の中古音の去聲と入聲に由来する「イ」、「エキ」という意味の違いに對應する區別が保存されている。音注が附くのは「難易」「簡易」の「易」（去聲）の方である。論語でも『釋文』は反切，『集注』は聲調で音を記すが，『大學章句』（大學 89），『中庸章句』（中庸 49）各 1 例も同じである。

(28)與 yǔ

『廣韻』上平九魚・余（以諸切）小韻に「歟，說文云，安气也，又語末之辭，亦作與，與，上同，本又餘佇切」，上八語・與（余呂切）に「善也，待也，說文曰，黨與也，…，又余，譽二音」，

去九御・豫（羊洳切）小韻に「與，參與也」。現代語でも句末の助辭「與」はyú，「參與する」の意ならyù，その他，「<sup>あた</sup>興える」の意などはyùである。『釋文』は句末の助辭と「參與」の「與」に直音で音を記す。『論語集注』は聲調で記すが，『中庸章句』も同様である。

	被注箇所	釋文	章句
中庸 15	也與	音餘，下強與皆同	平聲
中庸 28	強與	×（上文に「音餘，下強與皆同」）	平聲
中庸 35	以與	音預，注皆與之與、以其與同	去聲
中庸 69	也與	音餘	平聲
中庸 150	謂與	音餘	平聲

## (29) 遠 yuǎn

『廣韻』上二十阮・遠（雲阮切）に「遙遠也」，去二十五願・遠（于願切）に「離也」，『羣經音辨』卷六に「遠，疏也（於阮切，對近之稱），疏之曰遠（于眷切，論語恭鬼神而遠之）」。「遠い」は上聲，「遠ざける」は去聲である。『釋文』は去聲の「遠」に反切を附し，『論語集注』は聲調を用いるが，『章句』でも聲調が用いられる。

	被注箇所	釋文	章句
大學 105	能遠	于萬反	去聲
中庸 103	遠色	于萬反	去聲
中庸 158	遠之	如字，又于萬反	×

## (30) 知 zhī

『廣韻』には「知」（上平五支・陟離切）も「智」（去五寘・知義切）も現代語と同じくそれぞれ一音のみだが，『羣經音辨』は「知，識別也（張离切），識謂之知（張義切）」（卷六・辨字音清濁）といい，「知」について名詞なら「智」と同じ去聲に讀むとする。『釋文』は名詞の「知」に直音で音を附ける。これも被注字が通用字で本字で音が示されるタイプの直音注である。『章句』は『論語集注』と同じく，聲調で記す。

	被注箇所	釋文	章句
大學 4	其知	如字，徐音智，下致知同	×
中庸 11	知者	音智，下文大知也，予知，注有知皆同	去聲
中庸 14	大知	×（上文に「音智，下文大知也…皆同」）	去聲
中庸 17	予知	×（上文に「音智，下文…予知…皆同」）	去聲
中庸 94	知仁	音智，下近乎知，注言有知皆同	去聲
中庸 124	知也	音智，注同	去聲
中庸 168	知	音智，下聖知同	去聲
中庸 183	聖知之知	×	去聲

## (31) 治 zhi

『廣韻』上平七之・治（直之切）に「水名」，去六至・緻（直利切）に「治，理也」，去七志・

値（直吏切）に「治，理也」。『廣韻』には去聲には至韻、志韻の二音があるが義注では二音に意味の違いはなく、平聲の「治」は川の名である。『羣經音辨』卷六「治，理也（直基切），致理成功曰治（直吏切）」によれば、動詞「治める」が平聲で、治まった状態が去聲のようである。『釋文』では去聲の「治」に「直吏反」という反切が附くが、『論語集注』はそれを聲調で記す。『大學章句』は平聲の「治」にも去聲の「治」にも聲調で音を注する。

	被注箇所	釋文	章句
大學3	治其國	×	平聲，後放此
大學6	國治國治	並直吏反，下同	去聲，後放此
中庸93	而治	直吏反，一音如字	×

(32) 中 zhōng

『廣韻』に上平一東・中（陟弓切）に「平也，成也，宜也，堪也，任也，和也，半也，又姓…，又陟仲切」，去一送・中（陟仲切）に「當也，…，又陟弓切」。「如字」は平聲で「あたる」の意の「中」は去聲である。『釋文』では、「あたる」の意の「中」に反切が付き、『章句』はそれに『論語集注』と同じく聲調で音を附けている。

	被注箇所	釋文	章句
大學64	不中	丁仲反，注同	去聲
中庸8	中節	丁仲反，下注爲之中同	去聲
中庸114	而中	丁仲反，又如字，下中道同	並去聲

以上、『釋文』と『章句』の音注に見える多音字注音の特徴についてみたが、『章句』の多音字注は、意味の違いに対応する音の違いが聲調で特定できる場合は、聲調を用いることが多い。『釋文』直音注には、時建国2005のいうように、被注字が他の字に通用する場合に本字による直音注を用いることで被注字が本字本音で讀むべであることを示す場合があるが、そのような場合<sup>13</sup>でも、複数の音の違いが聲調で區別できるときは『章句』は聲調を用いる。但し、朝、夫、見、樂、説など音の違いが聲調で區別できない場合は『釋文』と同じ注音法を用いることも多い。『章句』の多音字注音は『論語集注』のそれと同様の傾向を持つといえる。

13 『章句』では「道」、「梯」、「知」がそれに当たる。

## 引用文献

- 黄坤堯 1997 「『釋文』“見”字音義辨析」(『音韻闡微』, 上海古籍出版社, p.174-186)  
時建国 2005 「『經典釋文』直音的性質」(『古漢語研究』 2005-1, p.24-28)  
周祖謨 1960 『廣韻校本 附校勘記』(中華書局)  
水谷誠 1998 『羣經音辨索引』(崑崙書房)  
森賀一惠 2010 「論語音對照表」(『富山大學人文學部紀要』 53, p.103-137)

本稿は平成22年度科學研究費補助金基盤研究(C)「音注の訓詁學的研究」(課題番号 20520377)の成果の一部である。